# JSCA九州メール版

**発行：日本建築構造技術者協会九州支部**
TEL 092-406-7204 / FAX 092-406-7214
Web Site：http://jscakyushu.jp/
E－mail：info@jscakyushu-.jp

## 平成３０年度　第１回役員会議　in 鹿児島　報告

ＪＳＣＡ九州支部「平成３０年度　第１回役員会」が７月２７日、鹿児島市の鹿児島東急 REI ホテル２階マーキュリーにおいて開催されました。

原支部長の挨拶
年１回の巡回役員会です。鹿児島の会員の皆さん、開催準備ありがとうございます。
今年から地区開催役員会において地元の建築関連の先生･行政の方より講演をいただくこととなりました。今日は鹿児島大学の塩屋先生のお話をお聞きします。
今後につながる１回目としたいと思います。
・役員改選で新体制となりました。新たな気持ちで一致協力しての支部活動を引き続きお願いしたい。
・熊本地震から２年と少々が経過しました。復興の状況について後ほど地区会報告でお聞きしたいと思います。6 月には大阪で震度 6 弱を記録するなど、大規模地震が頻発している。昨年度災害対応マニュアルを作成したが、引き続き地震に対する警戒と心の準備は継続していきたいと思います。
・来年度はＪＳＣＡ法人化 30 周年を迎えます。支部事業としては九州支部功労者表彰を行うことを前回の役員会で承認いただきました。本部方針に沿った外部へのアピールについても検討していきます。特別委員会を立ち上げて準備を進めたいと考えます。
皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと思います。
「ＪＳＣＡ法人化 30 周年記念事業委員会」
委員：青年部・シニアアドバイザー部会を中心に人選をお願いしたいと思います。
・2020 年ＪＳＣＡ構造デザイン発表会の開催については、九州支部が沖縄開催で立候補に手を挙げています。東北支部は九州支部の熱意に敬意を表して辞退されました。現在詳細な計画を本部ＷＧと詰めている段階です。開催決定に向けて支部全体で協力をお願いします。

**役員会の詳細は JSCA 九州 HP 上の議事録をご覧下さい。**
http://jscakyushu.jp/

役員会後、鹿児島大学工学部建築学科　塩屋晋一教授による「世界の木質ハイブリッド部材に関する研究の歴史と現状および鉄筋集成材構法」と題しまして講演が行われました。
鉄筋集成材構法についてわかりやすくご説明があった後、木質ハイブリッド部材の歴史や海外の木構造についてご紹介がありました。集成材に異形鉄筋を配筋したハイブリッド構法について初めて聴くことができ、とても勉強になりました。

活発な議論が行われた役員会は勿論のこと、懇親会や二次会でもとても有意義な交流が出来ました。

鹿児島地区会の皆様、誠にありがとうございました。

# 建築空間構造講演会

「建築空間構造講演会」が６月２５日に長崎で行われました。

長崎地区会の富田さんに作成して頂いた以下のレポートにて報告いたします。

---

長崎地区会の富田です。ご報告申し上げます。

JSCA（日本建築構造技術者協会）九州支部及び JSCA 九州支部長崎地区会は、2018 年 6 月 25 日、長崎市立図書館多目的ホールにおいて、建築空間構造講演会を開催しました。

171 名の会場満席の聴講者が、日本における建築空間構造デザインの第一人者である斎藤公男先生（日本大学名誉教授）らの話に聞き入りました。

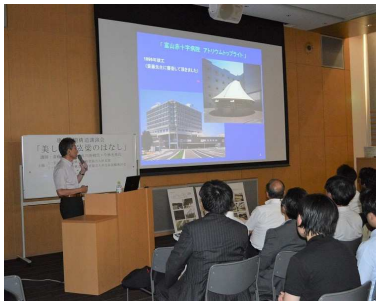
参加者は長崎県内、福岡県、佐賀県や沖縄県や東京などからもお集まりいただき、構造技術者のみならず建築設計者や官公庁関係者そして大学関係者など多岐にわたり、長崎大学からも 1 年生 45 名と大学院生 15 名の計 60 人が聴講しました。

本講演会は 2 部構成とし、第 1 部の講演会に、田川英樹氏（神鋼鋼線工業㈱）、今林光秀氏（JSCA 九州支部副支部長）、それから斎藤先生に登壇いただきました。

まず田川氏からは張弦梁用のテンション材の制作工程、ディテールや知っておきたいテクニックなどがわかりやすく丁寧に紹介され、続いて今林氏よりご自身の張弦梁設計での取り組みについて斎藤先生とのエピソードを交えつつ語られました。今林氏は自身の話の締めくくりに斎藤先生の「意匠がなくても空間はできるが構造がなければ空間は成立しない」という言葉を紹介された。これは意匠設計をないがしろにする意味ではなく、構造設計者として空間を創る責任と喜びをあらわす言葉であり、張弦梁の構造デザインとはまさにこのことだと話されました。

**満席となった会場**

**田川英樹氏**



**今林光秀氏**

その後、斎藤先生は、建築と構造をつなぐ美しい空間の創造・デザインについて、アーキニアリング・デザインの理念を交えながら語られました。続いて、キャンパスの中の試みからはじまった張弦梁構造のこれまでの歩みについて、ファラデーホールから現在に至る様々な張弦梁の構造デザインを披露され、建築家と構造家の協働することの大切さと構造設計者の姿勢を熱く語られました。さらに、我が国の戦後構造デザイン略史を紹介され、御自身の見解、現状の認識や問題提起、未来への展望を述べられ、そして最後に何事にも好奇心を持つことが大切であると話されました。

**斎藤公男先生**

**ファラデーホール**

**構造デザイン略史**

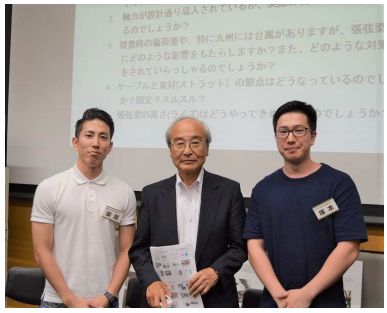
第２部のパネルディスカッションは今回講演会の特徴的なイベントとなったと思います。パネルディスカッションに先立ち、JSCA 九州支部長崎地区でプレゼンを行い、3 月から長崎地区会で行ってきた張弦梁勉強会・斎藤氏設計張弦梁構造見学会・自作の張弦梁構造模型実験について紹介をさせていただきました。

その後パネルディスカッションへと移りました。

パネラーは、斎藤先生・田川氏に JSCA 九州支部の重松氏・安達氏、地区会 3 名と長崎大学の学生代表 2 名（塚本氏・柴尾氏）そして今林副支部長に進行役を務めていただきました。長崎地区会プレゼンからの質問に対して斎藤先生・田川氏より丁寧なコメントがなされ、これから張弦梁構造へチャレンジするモチベーションとなりました。JSCA 九州 2 名からの張弦梁への取り組み方や構造デザインに対する姿勢についての質問に対して、斎藤先生から構造設計者としてのあり方についての熱いエールを頂きました。勇気をもって質問した学生 2 名に対しても斎藤先生より優しい言葉がかけられ、1 時間のパネルディスカッションは時間切れの形で充実のまま終了となりました。先生・講師をはじめ、計 171 名のご参加の皆様には本当に感謝しております。

長崎地区会プレゼン

パネルディスカッション



長崎大学学生

その後、移動して懇親会は市内の出島内外倶楽部で行いました。

斎藤先生には大変お疲れの中、書籍にサインを書いていただき、リラックスできなかったことと思いますが、本を手にされている方はとても喜ばれていました。懇親会もまた,盛会のうちにお開きとなりました。

最後に、斎藤先生に本講演会開催について大変賞賛していただきましたことは、長崎地区会にとっては身に余る光栄でした。そして、講演会、懇親会共に楽しく有意義な時間を過ごすことができたのも、この講演会について企画、準備会にすべて関わっていただいた、今林副会長の御熱意があったからこそだと思います。長崎にも勉強会に来ていただき大変感謝しております。本当にありがとうございました。

JSCA 本部理事　細澤治様

盛会な懇親会でした！

掲載記事大募集！！

正会員・賛助会員の皆様、この機関誌「ＪＳＣＡ九州メール版」へ何か掲載されませんか？！（広告など）掲載されたいかたは事務局までご一報をください。

編集後記

今年は西日本豪雨と称される記録的な大雨により、各地に甚大な被害が出ました。その後の猛暑（酷暑）に続いて、台風 12 号は東から西へ異例のコースをたどりました。過去の経験が通用しないことが発生してきており、技術者としてあらためて考えさせられます。

（福田・春元・中島　記）